



大竹さんのトウモロコシ



トマトとトウモロコシの出荷が重なる時期は、朝から深夜まで睡眠時間を削りながら毎日頑張っています。



放っておくと害獣の糞が全てかじってしまうので周りに電柵を張り巡らせて侵入を防いでいます。



トウモロコシの収穫適期はわずか3日。それを外さないよう1本1本、実の入りを持って確かめながら収穫します。

★作るなら、量を考えず美味しく作る

大竹さんのトマト、美味しいですね。今年は肥料を昨年の半分ぐらいしか与えておらず、水もトマトが欲する量の半分ぐらいしか与えていません。「欲をかって沢山与えれば実の量が増えるかもしれないけど、結局、最後には病気が増えて収量が落ちる。それよりは最初から量はとれなくても美味しく作った方が良いでしょう」

トウモロコシも同じように採算はあまり考えずに、美味しさを考えて作っています。まず、畝間は一般的には150cm~160cmですが、大竹さんは180cmと結構なスペースを空けて育てています。狭くすればそれだけ面積当たりの収量が増えますが、「親父の代からこうだな。隙間がある分、お日様が当たるしな。トウモロコシは太陽のエネルギーをたっぷり浴びて育つから、それで美味しくなるのかもな」

また、トウモロコシは必ず虫が入ります。去年は全体の半分ぐらいを廃棄しました。「今年はまだ虫が少なくて1/4も捨てていないよ。ただ、これからはわからないな」。虫が出始める時期より少しでも早く出荷しようと、3月上旬からトンネルで保温した畑に種を蒔くことで、6月下旬から出荷が開始出来ますが、徐々に虫は増えていきます。まだ畑に沢山残っていても、収穫した半分が虫にやられるようになったら出荷終了。無農薬栽培の宿命かもしれませんが、採算を考えず、作るなら野菜の力を引き出せるよう工夫をし、美味しさも追求しようとする大竹さんならではの作り方です。そんな思いと手間が詰まっているのが、大竹さんのトウモロコシです。

おかげさま農場は、「食は命」をテーマにしています。化学合成農薬や化学肥料を使わないことを基本としています。

【産地情報】

◎トウモロコシは虫次第ですが、7/10頃に終了する見込みです。